

世界で一つだけの花

水芭蕉の群生の中に咲く「しょうじょう袴」を見てくださったメル友から、「『世界にひとつだけの花』という歌が流行っていますが、いい歌詞ですね。ぴったりです。」との感想メールをいただいた。

恥ずかしながら流行の歌に疎く、娘からCDを借りてSMAPの「世界に一つだけの花」を聴いた。その歌詞に「そうさ 僕らは世界に一つだけの花 一人一人ちがう種をもつ その花を咲かせることだけに 一生懸命になればいい」、「number one にならなくていい、もともと特別な only one」等のフレーズがあった。

この「number one でなく、only one」のフレーズを聞くと思い出すのは、1989年に拝聴した元院長の講話である。今では一般的に使われている「ノーマライゼーション」であるが、拝聴当時日本ではまだ一般的ではなく、元院長はデンマークの福祉関係者と直接懇談した体験から講話してくださった。その中で「ノーマライゼーションとは、人と競争し蹴落とそうとする number one 思考でなく、みんな一人一人は、その人でなければ、その子どもでなければならぬ大事なものだ。意味があり、価値があり、それぞれに輝かしい生涯というものが約束されているのだという only one 思考なのだ。」と説明していただいた。

only one 思考は、何も福祉関係者にのみに必要な理念でなく、全ての人間に、社会に必要な理念だけに、世界に更に広く、深く浸透することを願う。

メル友からのメールに、元院長の教えを思い出すと共に、only one の理念が、福祉関係者のみでなく、流行の歌のフレーズなる時代を迎えたことにある種の感慨を抱きながら、CDを聴いた。

(2003年05月06日記)